

# 日本イエナプラン教育協会



## ニュースレター Vol.6 2011. 4月号

発行元：日本イエナプラン教育協会

編集：山崎 那菜

住所：〒155-0033

東京都世田谷区代田6-3-22-202

TEL：070-5559-0361 FAX：03-3466-3439

HP：<http://www.japanjenaplan.org/>

mail：[Info@japanjenaplan.org](mailto:Info@japanjenaplan.org)

新年度が始まりましたね。今月もみなさまに無事ニュースレターをお届けできることに感謝します。被災地にいらっしゃる方々、被害を受けている方々、安全な学びの場を持たずにいる子ども達に、早く安心できる生活が戻ることを祈り、長く支援を続けていきたいと思っております。 編集(山崎)

### 第6回

#### リテラシーって何？：パウロ・フレイレの批判教育学

協会代表 リヒテルズ直子

OECDのPISA学力テストで日本の子どもたちの成績が落ちたと話題になって以来、PISAが言う「00リテラシー」という言葉が、教育界だけではなく、一般にも定着してきたようです。

もともと、リテラシーという語は、literacyという英語の綴りからもわかると思いますが、「言葉」「言語」を使いこなす能力を指す言葉で、以前は、「識字」とか「読み書き能力」という狭い意味の言葉でした。

このリテラシーという語の社会的な意味を、教育に関連付けて初めて深く問うたのは、批判教育学で知られるブラジル人教育哲学者のパウロ・フレイレでしょう。彼は、文字を知らない僻村の村人たちに文字を教えることによって、村人たちが、読み書きを覚え、やがて、それらの言葉から得た知識を通して、また、彼らの間でのダイアログを通して、自分たちの置かれている社会的立場に気づくようになるのを助めました。そして、それまで、リテラシー(識字)を持たず沈黙していたことが、自分たちの力のない立場を受身に受け入れ、結局は、仲間たちみんなが現状に甘んじるしかない状態を作り出している原因であった、ということに気づいていくのです。そして、村人たちは、自分たちの位置を知り、それについて語り合うことが、自らの置かれている状況の変革につながるという信念を持つようになります。

1960年代のブラジルで行われた、フレイレの、この全国的な成人識字化キャンペーンは大きな成功を収め、世界中の識字化キャンペーンに影響を与えました。

PISAが言うリテラシーという語も、実は、こういう意味を含むものであると私は思います。つまり、リテラシーは、子どもや大人がそれを身につけることで自分の置かれている位置を知り、社会の変革に積極的に関わっていくための大切な前提条件なのです。単に識字に限らず、歴史や科学の方法を学び、それを使って自らの置かれている世界に目を拓いていく、それがリテラシーを身につけるということです。学校でリテラシーを育てるとするのは、まさに、子ども一人ひとりが、自分で自分の頭を使ってものを考え(批判的な思考)、仲間の子どもたちや、学校に関わる大人たちと対話をしていくことによって、自分の方から、必要な知識を身につけていく、つまり、「学ぶことを学ぶ」ことにほかなりません。それは、フレイレが「銀行アプローチ」と名付けた、先生が一方向的に教え、子供は果てしなく受身の人間として育てられていく古い、画一斉の学校教育とは正反対のものです。

フレイレは「銀行アプローチ」の学校には次のような特徴があると述べています。

1. 教師が教え、生徒は教えられる。
2. 教師がなんでも知っていて生徒はなんにも知らない。
3. 教師が考え、生徒については他の人が考えるもの。
4. 教師がはなし、生徒はおとなしく耳を傾ける。
5. 教師が選び、自分の選んだものを押し付け、生徒はそれに従う。
6. 教師が行為し、生徒たちは教師の行為を通して、あたかも自分も行為しているという幻想を持つ。
7. 教師が授業プログラムの内容を選び、生徒は(何ら相談を受けることもなく)それに適応する。
8. 教師は知識を持っている権威を、自分の教員としての権威によって混乱させ、生徒たちの自由を奪う。
9. 教師が学習プロセスの「主体者」で、生徒は単なる対象物でしかない。

まさか、イエナプラン教育を推進しようとしている皆さんが、上のような「銀行アプローチ」をする方たちであるとは想像もしていません。しかし、「銀行アプローチ」のような画一斉授業は、複数の生徒たちにたくさんのことを一度に教えたいと思うと、ついそうなりがちで、先生にとっては「うまくたくさん教えた」という安易な安心につながりやすいやり方なのです。

なぜ、イエナプラン教育は「異年齢学級」なのでしょう。

そうすることで、先生が一斉授業ができないようにするためです。そして、子どもと子どもの間に対話が生まれ、それを通して、子ども達が、自分のほうから、知りたい、学びたい、という意欲を持つようになるためです。さらに、子どもたちが、自分とは異なる「他者」と出会うことによって、お互いにお互いを認め合うこと、さらに、異なる者同士であるからこそ一人ではできないことができるようになるということを学ぶためです。



Photo リヒテルズ直子

体育の時も基本はサークル

3月11日に起きた巨大地震と津波、そして、原発事故による放射能漏れという大きな災害に日本は直面しています。火山列島に54基もの原発が建てられていくまでに、私たちは、いったい、どれほど、自分たちが、そのような開発を行なっている国に住んでいるという事実について知らされたり、学んだりすることができたでしょうか。いったい、原発はほんとうに必要なのか、原発はどう安全なのか危険なのか、事故の起こる可能性は、、、といったことについての議論に参加し、自分たちの意見として、政策に影響をあたえることができたでしょうか。画一の一斉授業を主流としてきた日本の学校教育が、リテラシーを育ててこなかったことはおわかりだと思います。

もしかすると、わざわざ意図してリテラシーを育てないようにしていたのかも、とさえ思えてきます。英語がこんなにも世界の共通語として普及しているのに、日本の大学生、あるいは研究者も、英語を使うことが大の苦手です。これも、国際人としてのリテラシーの欠陥です。これでは、自分の住んでいる日本という国が、他国からどう思われているか知ることはできません。

教育とは、子どもが、自分で自分にとって必要な情報を探し、その情報の信頼性を判断し、社会に参加して他の人と共に、自分たちが属する世界をより良く生きやすくするための活動へ意欲を持って参加できる大人へと育てるためのものです。

私が、イエナプラン教育に深く関わっている理由は、ただ、この一点につきます。

## シリーズ ～サークル対話～



【シリーズ～サークル対話～】の第2回目を皆さまにお届け致します。どうぞ、ご自分の実践などと照らし合わせて、お読みください。日本でサークル対話を広め、盛り上げていくヒントがいっぱいです！

### サークル対話の進め方

リヒテルズ直子

この手引きは、サークル対話を進めるときの注意事項として、主に下記の参考資料をもとに記述したものです。筆者が日本の状況に照らして必要に応じて補足的な説明を施しています。ニュースターでは4回に分けて、サークル対話についてシリーズをお届けします。

5回目(7月)号では、皆さんそれぞれの実践や経験(成功例や失敗談)をご照会ください。

- 1回目(3月):サークル対話をなぜするのか
- 2回目(4月):サークル対話にはどんなものがあるか
- 3回目(5月):サークル対話をうまく進めるための知恵と工夫
- 4回目(6月):サークル対話がうまくいかないのはどんな時?
- 5回目(7月):会員参加:サークル対話をやってみたら、、、?

参考資料(1～4回):

- K.Both, "Jenaplan, Jenaplanonderwijs op weg naar de 21e eeuw", Nederlandse Jenaplan vereniging(NJPV), 1 (ケース・ボット「イエナプラン、21世紀に向かうイエナプラン教育」オランダイエナプラン教育協会(NJPV))
- Ad W.Boes, "Gesprekken in de kring", Christelijk pedagogisch studiecentrum(CPS), ISBN 9065083049, pp.17-36
- (アド・W・ブース「サークルの中での対話」キリスト教教育研究センター)

## シリーズ第2回

### 【サークル対話にはどんなものがあるか】

#### A) オープンサークル

特に前もって内容を決めないで、その時に参加者が持ち寄った意見、アイデア、などをもとに展開するもの。

#### B) テーマサークル

時事(子どもニュースの話題)、その時点で学校やクラスで話題になっていること、社会で流行していること(話題になっていることや問題視されていること)、そのほか、一般的に子どもたちにテーマとして取り上げられるものとして、例えば次のようなものもテーマにできます：

- 不安について
  - 孤独について
  - 人を羨む(嫉妬する)ということについて
  - 自由と自分勝手
  - 家族について
  - 病気について
  - 友情について
  - 男女交際について
  - 宗教を信じるということについて
  - 旅行で訪れた土地について
  - 年をとるということについて
  - 金持ちと貧乏について(豊かさとは何か)
  - 遊び(ゲーム)について
  - おもちゃについて
- など。

また、クラスの課題をテーマにすることもできます。

- どうしたらこの教室をもっと居心地の良い話に出来るだろう
- 通知表と自己評価について

#### C) 読みサークル

グループリーダー(担任教員)による読み聞かせ、子ども(個別またはグループ)による朗読、などをもとにサークル対話を始める。ある本全体についてでもよいし、読まれた部分についてでもよい。

- 内容について一人一人の感想を聞く
  - どの部分が一番良かったか。どこが最も印象に残ったか。
  - もしあなたが主人公(または他の登場人物)だったら？
  - この話のような時代(場所)に生きてみたいと思うか？
  - この話がこんな結末になると予想していたか？
- など。

#### D) 観察サークル

サークルを作ってみんなで観察するものを用意して行う。

対象物は、多面的な要素を持つもの、また、子どもの日常生活に身近なもの(いつもよく見ているもの)がふさわしい：動物、植物、楽器、アート作品など。リーダーによる準備(どんな感想や質問が出るか、リーダーが話の展開を豊かにするにはどんなことをすればいいか)が大切。

- サークル対話を通じて、対象物についてのさらなる探究のためにどんな可能性を提供できるか(見学・実験・情報源など)
- 子どもたちの対話が行き詰った時のブレークスルーとしてどんな話題やきっかけが可能か。
- 子どもたちが、黙って観察する時間、他の人の話をよく聞き考えてみる時間を十分に与えること。
- 子どもたちが発言する「すでに知っていること」「もっと知りたいこと」を整理していく準備。

#### E) 自由作文サークル

子どもが書いた作文をもとに、そこで取り上げられたテーマを共有してサークル対話にしていく。(フレネ教育の影響)

#### F) 報告サークル

この場合、報告形式として、報告者が前に立って言葉だけで発表する形式にこだわらないこと！

報告の形式の例：

- 記事を切り抜いてみんなに渡す、

- 詩を作って発表する、
- スピーチをする、
- テーマを挙げてみんなで議論する、
- 録音されたものを聞かせる、
- お話を読む、
- デモンストレーションをする、
- クイズをして参加者に解かせる、
- ビデオ録画を見せる、
- グラフや図を見せる、
- 演劇をする、
- 絵やスケッチを見せる、
- パワーポイントで報告する、
- 音楽を使う、
- ミニ・ミュージカルを見せる、
- 歌を歌う、
- ジェスチャーで表現する、
- ダンス、テーマに関係したものを見せる、
- 調べた動物や植物を見せる、
- 実地見学を企画する、
- 散策を企画する、など



Photo:!!ヒテルズ直子

#### G)その他の種類のサークル例

企画サークル、準備サークル、宗教サークル、評価サークル、催し(お祝い)サークル、





## —リヒテルズ直子の 質問箱 —



小学校教諭 Kさん  
東京都

**Q:** 半年ほど前から小学校1年生36人でのサークル対話を実践しています。最初に、マイクを持っている人以外は話さず、マイクを持っている人の話をしっかり聞く」という約束をしました。ですが、どうしても、近くの人と話したくなるようです。聞こえなかったりすると、確かめたくなくなりますし。1週間に1度、道徳の時間に、「輪になって話そう」という单元名をつけて、みんなと仲良くなるための時間として設定しています。「好きな動物」「好きな色」「好きな食べ物」から始めて、「最近楽しかったこと」「最近困っていること」「キラキラさん(クラスで輝いている人)」などを話しています。クラスには、「輪になって話したいこと」カードを置いて、話したいことを書いてもらっています。そのカードが今は10項目以上たまってしまっていますが、なかなか毎日ではできないのが現実です。子どもたちは、輪になって話すのが大好きなようで、1単位時間(45分)が終わると「もう終わりか」と残念がります。4月からクラス替えもなく2年生に持ち上がるので、引き続きサークル対話を行っていく予定です。が、担任としては、まだまだ全員の話に自然に耳を傾けるところまでいかず、私や何人かの子が「静かにしよう」と注意している現状が少し残念です。このまま続けていけばもう少し落ち着いてくるのかどうなのか、不安なのでアドバイスいただけたら嬉しいです。



### A:リヒテルズ直子より

とても素晴らしい実践ですね。「キラキラさん」なんてほんとうに素敵です。

完全に理想的なサークルが出来なくても、是非続けてください。なぜなら、学校は「練習」のための場であるからです。そういう場を、初めて、または、まだ少ししか体験できない子どもたちにとって、初めから上手くできないのは当然です。また、失敗を繰り返すことでうまくくなっていく、という経験が大事なのです。大人が、好ましくない態度をやさしく理解を持って気づかせてくれ、自分たちで考えて何がみんなにとって気持ちが良くて正しいことなのかをゆっくり話し合える場、それが学校です。未来を担う子ども達が、自分たちのルールは自分たちで決めるのだ、ということを学ぶ場でもあるのですから。

どうしても、話をしている人に耳を傾けなかったり、よく聞こえなかったから隣の子に聞い

(次のページに続きます)

## — 質問箱 続き —

てみるというようなことが起こるのならば、

「サークルの時にどうして隣の人と話をするのか。どうして話をしている人の言葉に耳を傾けられないのかな」

ということを一度テーマにした話し合いをしてみることはできないでしょうか。これは、瑣末なことの様に見えるかもしれないけど、市民社会の態度を教えるとても大事なテーマです。

子どもたちは、

「話している人の声が小さくて聞こえないから」

というかもしれない。

その時に、せんせいが、ただ、「じゃあみんな、はっきりわかるように大きな声で話してね」というのではなく、「どうしたら、みんなに聞こえるように話せるかな」

と子ども自身が考えられるように仕向けていくのです。

きっと色々なアイデアが出てくるに違いない、そして、それについて、子ども達がワイワイといろいろな意見を出し合うに違いありません。それが大切なのです。つまり、サークル対話そのものも、自分たちが自分たちの責任で運営する、という意識がその時に生まれるからです。

こういう話し合いを経ておけば、そこで体験を子ども達は覚えているので、次に同じことが起きたときには、先生は、子ども達が子ども達自身で話し合ったことを思い出させるような言葉がけをすればいい。

また、話し合いに参加しない子が多い時には、

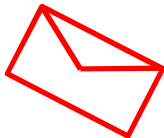
「なぜ、話を良くする人とそうでない人とがいるのかしら」

というテーマで子どもたちに考えさせることもできるでしょう。いつも元気よく発言する子たちが、発言しない子どもたちの気持ちを想像してみる時間です。多分、気兼ねなく発言できること言うのは、恥ずかしがりだったり、あまり目立ったことができない子供の気持ちなど考えてみたこともない、ということが多いと思います。こうして考えてくれる子ども達がいると知ったら、いつか、ゆっくりとかもしれないけど、なかなかモノを言わなかった子どもたちも用心深く口を開く時が来るのではないのでしょうか？そうして、静かな子ども達もいろいろなことを考えているということに元気な子ども達が気づき、そういう子どもたちの意見を聞いてみる大切さを知るようになる。

このような積み重ねを経ておくと、色々な約束事を、参加している子どもたち全てで共有できるようになります。そして、ざわざわしたり、うまくいかなかった時、先生が、ちょっと口をつぐみ、静になるまで数十秒の間沈黙してみる、というだけで、また、もとのサークル対話の準備ができるようになるはずですよ。

イエナプランがリズムを重視するのは、こうした、サークル対話や学習(仕事)には、ある最低限度の緊張が伴うものだからです。何かに集中する前には、エネルギーを回復するような遊び、何かに集中した後は、リラックス出来る遊びが必要です。5分か10分程度、サークルになった状態でそういう遊びをします。輪になってやれる協働ゲームです。その時には、みんなでお腹の底から声を出して一緒に笑う、、、毎日それを積み重ねていくことで、お互いの共同体意識が育ち、仲間の中では安心してものが言える、また、他の人の言っていることに友好的な心の持ち方が出来る、つまり、オープンになんでも話し合えるクラス集団が育っていきます。

そして、そういう集団の中で、先生は、少し年齢が上で経験がある大人として、でも、市民社会の仲間として加わって欲しいと思います。



イエナプラン教育に関するご質問を募集しております。

下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください！

[info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)

## ◆お知らせ◆

メーリングリストや前回のニュースレターでお伝えしました、リヒテルズ直子氏の東日本での講演会は、震災の影響のため延期させていただくことになりました。九州や関西での開催はまだ未定となっておりますが、詳細が決まり次第、皆様にお知らせいたします。いずれにしても、状況が落ち着き次第(夏か秋)には帰国し、関東での講演等もできるように企画されるということです。復興日本に向け、イエナプランが活躍しなければならない日も間近です。その日のためにみんなで力を蓄えておきましょう。

### ★みなさまの【サークル対話実践談】を募集します。

イエナプラン教育で行われているサークル対話。日本でも教育の場や会社、熟議の場などで少しずつ広まってきました。今回の質問箱にも掲載させていただきましたが、引き続き、皆さまのサークル対話実践談を募集しております！

『こんな場でやってみたら良かった』『やってみたけど、なかなか上手くいかなかった』『こんなところが難しい/わからない。オランダではどうしてるの?』など、感想や質問などもお待ちしております。

また、みなさまの実践はニュースレター6月号にも、まとめてご紹介させて頂く予定です。

この機会に日本での実践に関する情報や知識を共有し、会員のみなさまとサークル対話を日本でもっともっと広げていければうれしいです。

実践談やご質問をお送り頂く際は、「サークル対話実践談」とお書きの上 [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org) までお送り下さい。紙面の都合上、頂いたご報告やご質問をこちらで編集することがあることをご了承下さい。皆さまからのご報告をお待ちしております。

### ★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想を[info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org) までお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

### ★各支部のご案内

- 東京支部 [info@japanjenaplan.org](mailto:info@japanjenaplan.org)
- 千葉支部 [chiba@japanjenaplan.org](mailto:chiba@japanjenaplan.org)
- 埼玉支部 [saitama@japanjenaplan.org](mailto:saitama@japanjenaplan.org)
- 京都支部 [kyoto@japanjenaplan.org](mailto:kyoto@japanjenaplan.org)
- 福岡支部 [fukuoka@japanjenaplan.org](mailto:fukuoka@japanjenaplan.org)

★ニュースレター4月号はいかがでしたか？  
新たな環境で学び、教えはじめた方々の声を耳にすると、私も気がひきしまる思いです。震災後、これまでの価値観をもう一度見なおしてみるということ、多くの人々が始めたのではないのでしょうか。生活の仕方や人との関わり方、自分の心とのつきあい方など、人生をよりよく生きたい、生きていこうと決めた時、あらためてイエナプランから多くのヒントを受け取っていたことに気づきました。この考え方、アイデアを沢山の方々と共有して行きたいと思っています。来月もどうぞお楽しみに！

編集(山崎)